

シニアの力パワー

地域と共に



岡高齢者介護課
Tel 71-2474

人 生100年時代と言われる現在、地域の一人として自分らしく暮らしていたい。厚生労働白書によると、団塊の世代が全て75歳となる令和7年には、日本の人口の3人に1人は65歳以上と推計されています。本市の人口も平成22年をピークに減少しており、65歳以上の割合は令和2年時点ですでに3割を超えています。

市ではシニアの皆さんが住み慣れた地域で生きがいと役割を持ち、心も身体も健康に暮らすようにさまざまな取り組みを行っています。

今月号では、地域のために積極的に活動する団体や、元気に仲間と楽しみながら活動する皆さんを、市の取り組みと合わせて特集します。



雪の朝を迎えた3月6日、岩原豊葦会の皆さんがじゃぶじゃぶ池に集合。会の厚生事業の日帰り旅行を前にガッツポーズ



1



3



2



5



4

- 1_ 岩原公民館前の花壇に花を定植
- 2_ 山麓線沿線に広がる花壇
- 3_ 会員が協力してじゃぶじゃぶ池を施工
- 4_ 完成したじゃぶじゃぶ池
- 5_ 夏に開かれたニジマスのつかみ取り大会

堀金烏川の岩原豊葦会。現在65歳から88歳までのおよそ60人の会員一人一人が若いころ培った知識や技能を生かし、地域の縁の下の力持ちとして活躍しています。代表の宮島千里さんに話を聞きました。

続けてきた活動に花が咲く

岩原豊葦会独自の活動は環境美化活動やマレットゴルフ、ボウリングなどのスポーツ、旅行などのふれあい活動です。特に環境美化活動では「岩原お花いっぱい大作戦」として、山麓線沿いの歩道約2kmの管理に力を入れています。長年雑草だらけで荒れていましたが、土を入れ替え、花を植え、当番で草取りや水やりをするように。花を植えることは誰でもできますが、生育を管理し、美しい景観を維持し続けることは時間も労力もかかります。気が付けば観光客からも好評をいただける地域になり、昨年行われた市シニアクラブの花壇審査会で見事金賞を受賞しました。

じゃぶじゃぶ池をプレゼント

発足した翌年、「なかなか外で遊ぶ機会が少ない子どもたちに遊び場を」との思いから、岩原公民館に隣接する公園に「じゃぶじゃぶ池」を作りました。ある人は設計、またある人は重機の運転と、会員一人一人が持ち味を発揮した自営工事によって、約60平方メートルの大きな池が完成。子どもたちからは「じいちゃん、ばあちゃんからのプレゼントだ」と大変喜んでもらいました。

夏には水鉄砲やイカダを浮かべて遊ぶ子どもの姿が見られ、ニジマスのつかみ取り大会などが（一）

開催されています。今後は大人も楽しめるように、夏の夕涼みビール大会を計画中です。私たちが作ったじゃぶじゃぶ池が、地域住民のよりどころとなり、世代を超えた交流の場となっていることをとてもうれしく思います。

地域の縁の下の力持ち

岩原豊葦会は、独自の活動に加え市や社協、PTAなど、さまざまな団体の活動と協同しています。そのためか、地区の住民からは「岩原で一番元気がいい、縁の下の力持ち」と言われます。若い人と一緒に活動することは張り合いになります。それに、地域に若い人の声が響き渡らないと地域そのものが衰退してしまいます。年寄りだけでも、若い人のやりたいことを後押しできるような組織でありたいです。

シニアの力を地域の架け橋に

どんな組織でも、新たな人材が入ってこないと言退していきま。多くの人が組織の役職に就くことをためらうのも、会員が増えない理由の一つです。岩原豊葦会では、誰か一人に負



岩原豊葦会
代表 宮島千里さん

働いているうちは、その人にとって職場は大切なコミュニティです。しかし、一線を退いた後や一人暮らしとなったとき、最後まで自分が属するコミュニティは、自分の暮らす地域だと思っています。さまざまな分野で活躍してきたシニアの皆さん。自分の力を地域のために生かし、一緒に地域をつなぐ架け橋になりましょう。

DATA 岩原豊葦会のルーツ

平成27年の発足前は岩原老人クラブとして活動。会員の高齢化によって活動が衰退し、当時の会長から「もう少し若い人たちで——。」と相談を持ち掛けられたのをきっかけに、「老人」という名前を使わず、当時すでに解散していた岩原地区の青年団・豊葦会の名前を受け継ぎ発足。「地域の伝統や活動をつなぎたい」との思いで日々活動中。現在若い会員募集中。